

# 大学生のライフデザインイメージ：講義支援での学生の学び

著者	加藤 千恵子, 今野 聖士, 刀禰 聡美, 若林 智, 結城 佳子
雑誌名	地域と住民：コミュニティケア教育研究センター年報
号	4
ページ	105-116
発行年	2020-05-31
出版者	名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター
ISSN	0288-4917
書誌レコードID	AN0001106X
論文ID (NAID)	120006875050
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1088/00001864/">http://id.nii.ac.jp/1088/00001864/</a>

## 実践報告

# 大学生のライフデザインイメージ

## 講義支援での学生の学び

加藤千恵子<sup>1)</sup> \* 今野聖士<sup>2)</sup> 刀禰聡美<sup>3)</sup> 若林 智<sup>3)</sup> 結城佳子<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 名寄市立大学保健福祉学部看護学科 <sup>2)</sup> 名寄市立大学保健福祉学教養教育部

<sup>3)</sup> 名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター

キーワード：ライフデザインゼミ 大学生 ライフデザインイメージ 少子化 少子化支援対策

### 1. はじめに

少子化社会対策基本法に基づき、少子化に対処するための施策の指針として2015年「少子化社会対策大綱」が策定された<sup>1)</sup>。ライフデザイン教育の重要性に関して、的場（2016）は、「将来のライフデザインを描けるようにするために、その前提となる知識・情報を適切な時期に知ることが重要である」と述べている<sup>2)</sup>。

ライフデザインゼミ（道・本学コミュニティケア教育研究センター主催）の開催は2019年度で4度目となる。本年は、堀岡園子氏（北海道保健福祉部子ども未来推進局 子ども子育て支援課少子化対策グループ 主任）を迎え、主に現代経済学（以下、経済学）と母性看護学概論（以下、概論）の講義支援という介入で、2部構成で開講した。堀岡氏は、北海道の少子化や子育て支援、児童虐待（児童相談所の機能や役割）への対策を長きにわたり行ってきており、その知見をそれぞれに、講義していただいた。その講義を受けて、アンケート調査を行った。アンケートで得られた結果から、大学生のライフデザインイメージの一端を明らかにしたいと考える。

### 2. 結果

ライフデザインゼミのアンケート回答者は、経済学が79人、概論が47人、合計126人であった。アンケート回収率は91.3%（126/138）であった。

内訳は、経済学（看護学科1年31人、4年3人、栄養学科1年11人、社会福祉学科1年27人、学科無回答7人）の男性15人、女性64人で、概論（看護学科2年）は、男性6人、女性37人、無回答4人であった。

参加した大学生の年齢は経済学が18.8±0.8歳、概論が20.5±4.9歳であった。概論に比べ経済学の方が受講している学生の年齢が有意に低かった（ $p=0.001$ ）（図1）。

以下、講義別で報告する。

#### 1) 少子化問題に関して

7-8割の者が非常に問題であると捉えていた（図2）。

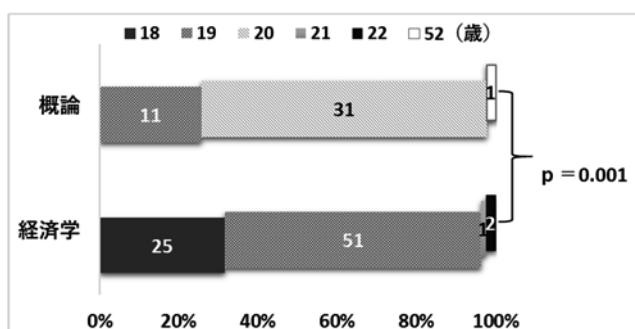


図1 受講者の年齢分布

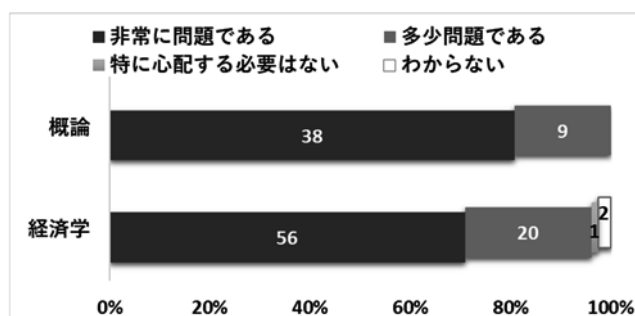


図2 少子化問題について

## 2) 結婚し、子どもを持ち、親となることに関して

「とても思う」とした者が、経済学は43.0% (34/79)、概論は69.6% (32/46) で、半数以上の学生が結婚し、子どもを持ち親になることをとても思考していた。また、経済学に比べ概論受講者の方が「とても思う」の割合が有意に高かった ( $p=0.001$ ) (図3)。

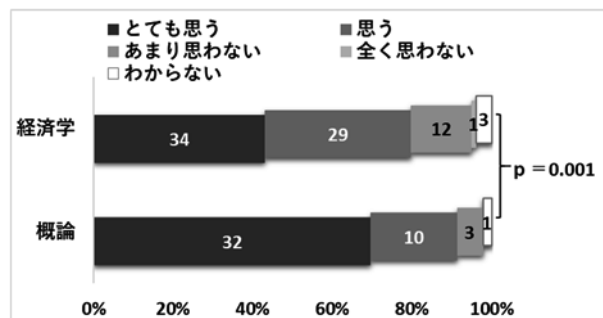


図3 結婚し、子どもを持ち、親となること

## 3) 親になる理由について

「自分の家庭を持つ」とした者が、経済学63.5% (40/63)、概論64.3% (27/42)、「子どもが欲しい」とした者が、経済学58.7% (37/63)、概論70.6% (33/42) であった。「好きな人と暮らす」とした者が経済学41.3% (26/63)、概論21.4% (9/42) であった (図4)。

親にならない理由では、「自由でなくなる」「他人と暮らすのが面倒」があった (図5)。

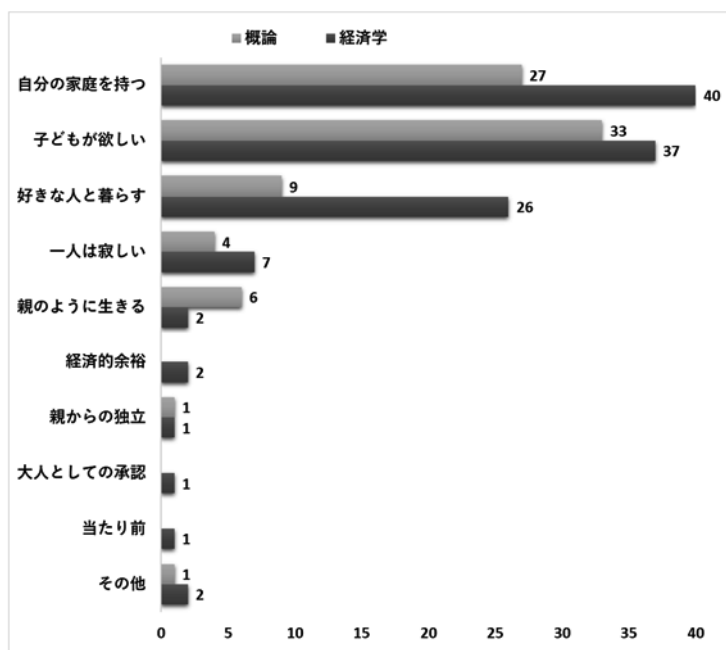


図4 親になる理由

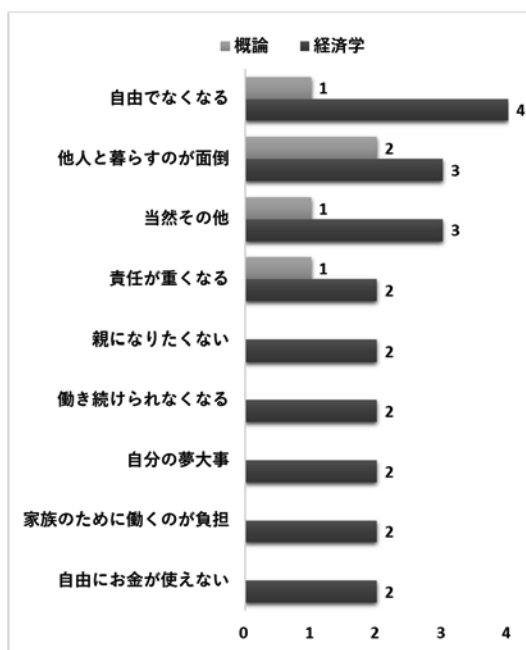


図5 親にならない理由

## 4) 赤ちゃんのふれあいの機会に関して

赤ちゃんとのふれあいの機会を半数以上が持っている状態であった (図6)。

ふれあいの時期は、各小学生低学年・高学年・中学生・高校生・高校卒業以降に分散していた (図7)。

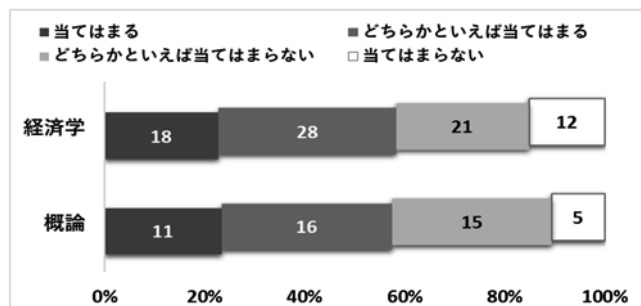


図6 現在までの赤ちゃんとのふれあいの機会

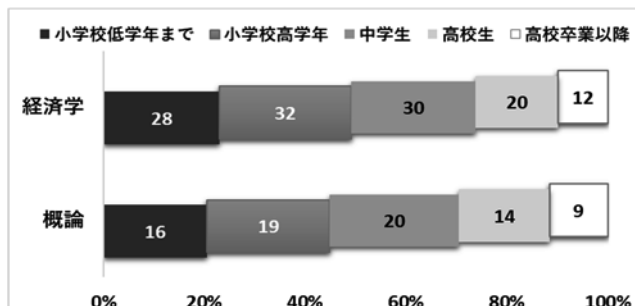


図7 赤ちゃんとのふれあいの時期（複数回答）

5) 現在の育児環境に関して

育児環境に関して、「育児休業の職場支援が不十分」「育児休業のとれる職場環境」、「保育所や保育サービスが不十分」であること、「両立について配偶者・家族の理解や援助が不足」であることが挙げられた(図8)。

6) 将来の家庭と仕事のあり方に関して

将来、「結婚し子どもを持ち夫婦で協力して育てる」とした者が経済学 76.6%(59/77)、概論 68.1%(32/47)であった(図9)。

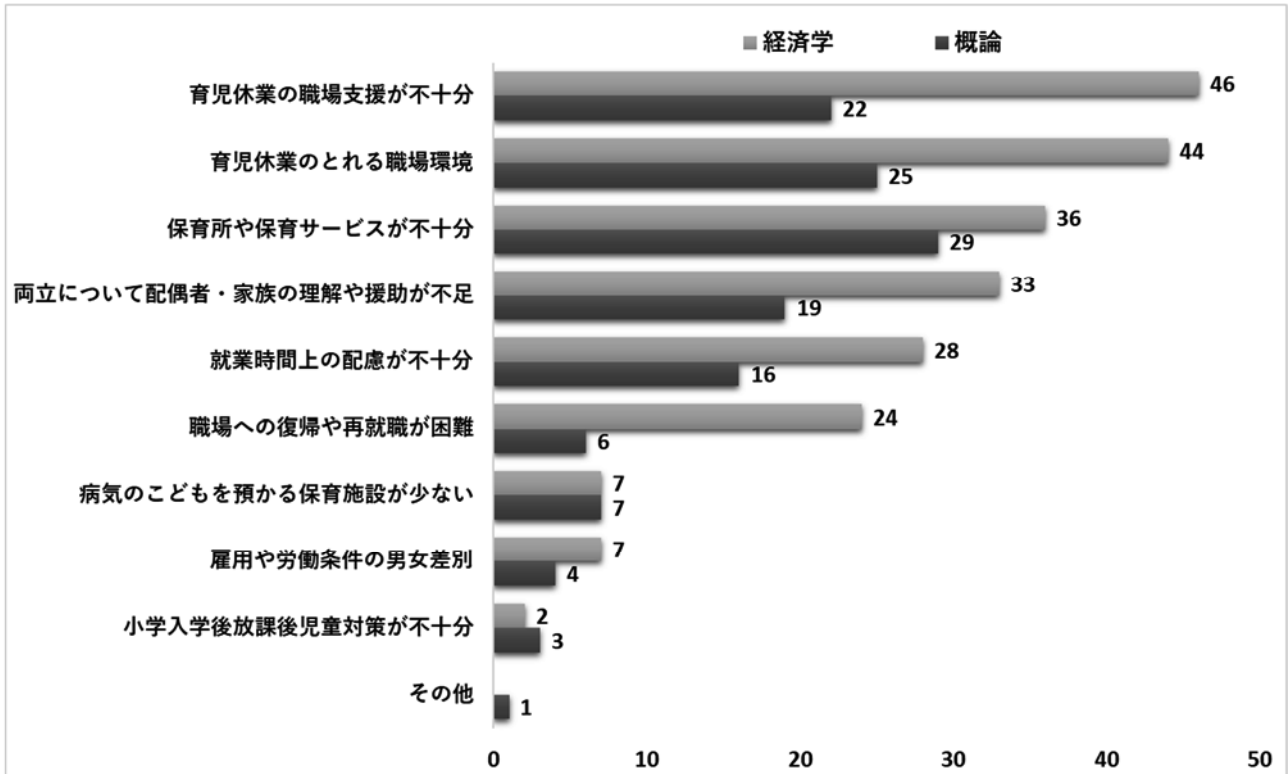


図8 現在の育児環境

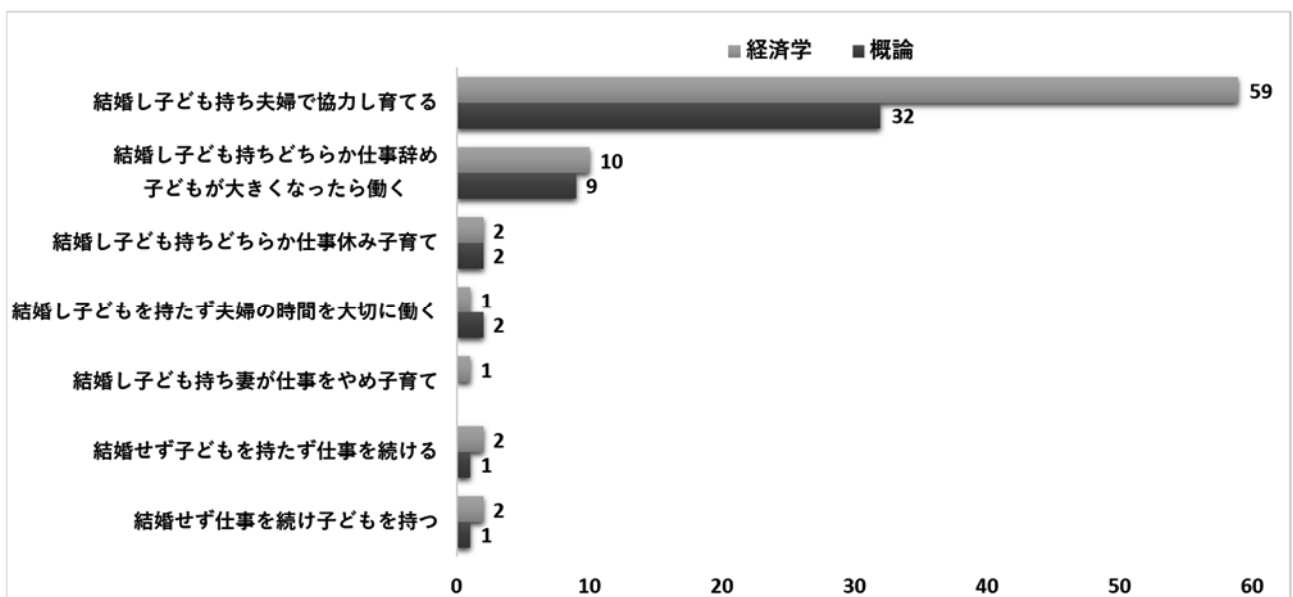


図9 将来の仕事と家庭のあり方

## 7) 育児のイメージ

主な育児のイメージは、「責任」「楽しい」「難しい」「喜び」と、相反するイメージを持っていた（図10）。

## 8) 子どもが育つために大切なこと

「親の子への愛情」「夫婦の協力」「安定した収入」が挙げられた。概論に比べ経済学の受講者の方が「安心な場所、自然環境」を選択した割合が有意に高かった（ $p=0.040$ ）（図11）。

## 9) 職場選択に影響する要因

主な職業選択の影響要因は、「年収」「労働時間と休日休暇」「仕事と家庭の両立」「職場の人間関係」であった。

概論に比べ、経済学受講者の方が採用形態を選択した割合が有意に高かった（ $p=0.044$ ）（図12）。

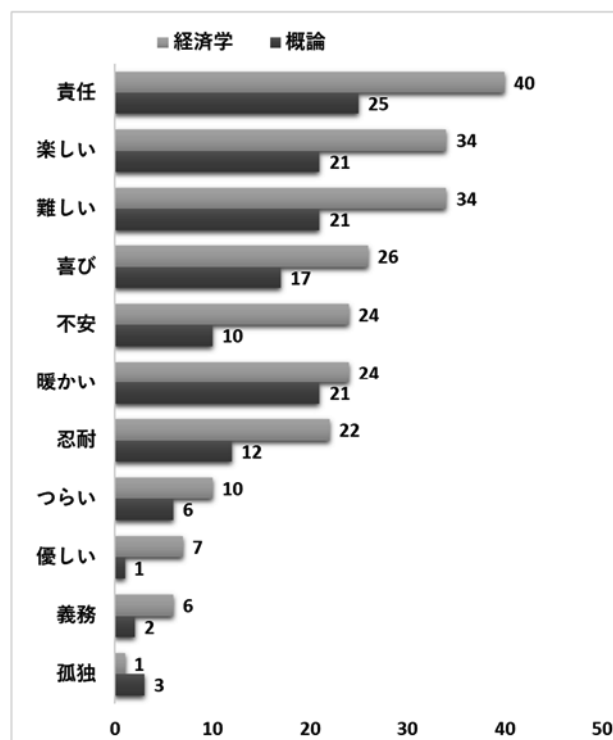


図10 育児のイメージ

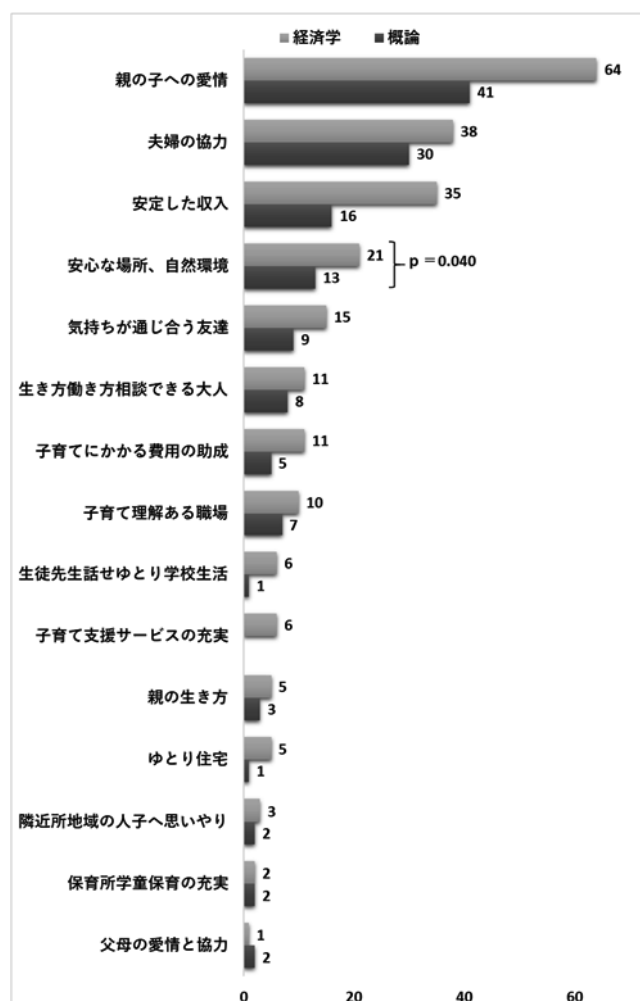


図11 子どもが育つために大切なこと

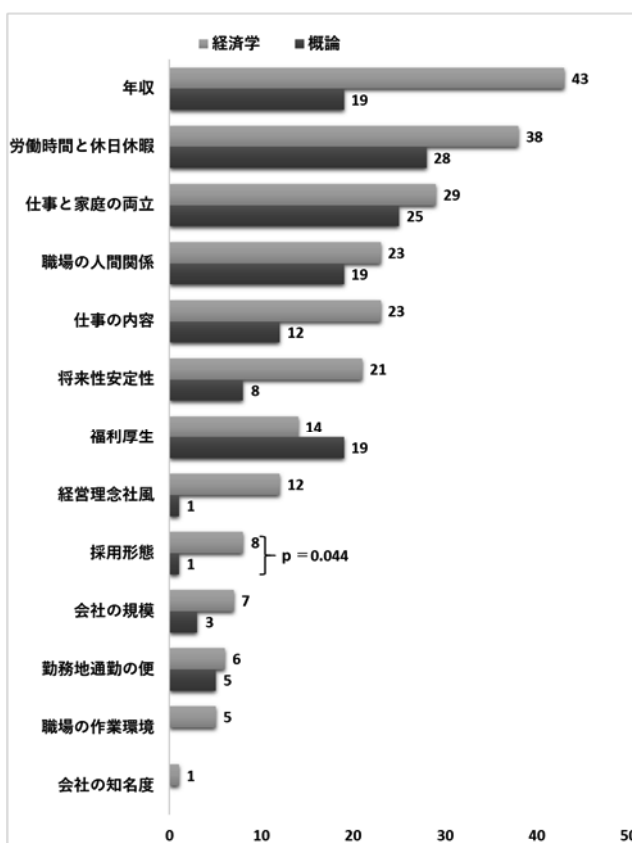


図12 将来、職場選択に重要な点

10) 今後、聞きたい内容

今後、聞きたい主な内容は、「仕事と家庭の両立と制度」「児童虐待の対策」「子育て支援策」であった（図 13）。

11) ライフデザインに関するイメージ

8-9 割の者がイメージすることが「できた」、「少しできた」とした（図 14）。

12) 今回の講演の評価

9 割以上が、「大変良かった」、「良かった」とした（図 15）。

13) 今後の方向性

今後、9 割以上が「このまま続けた方が良い」とした（図 16）。

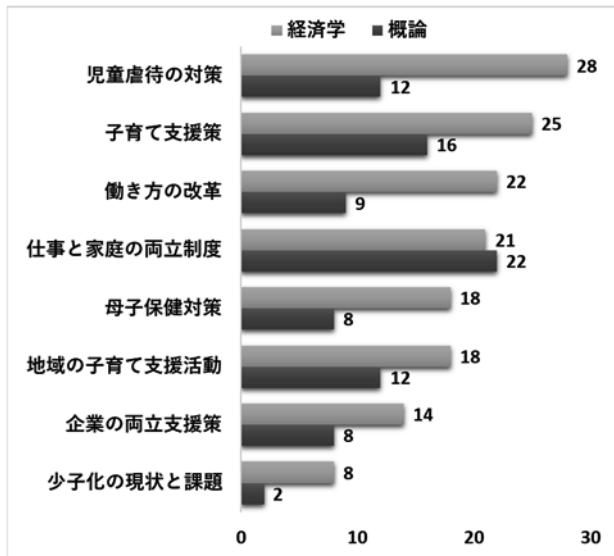


図 13 今後聞きたい内容

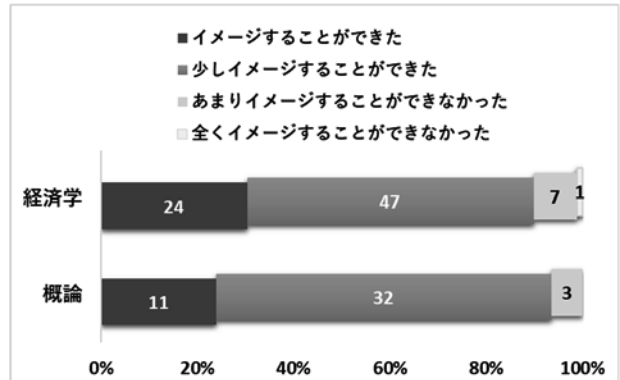


図 14 ライフデザインに関するイメージ

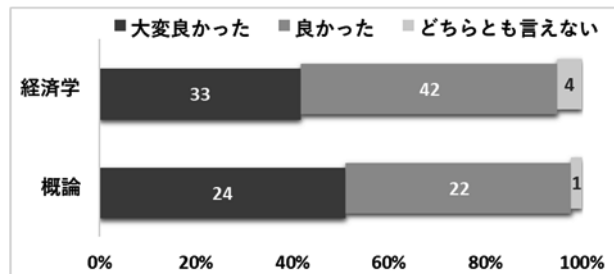


図 15 今回の講演の評価

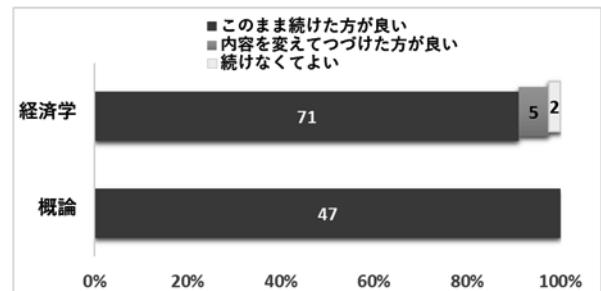


図 16 今後の方向性

14) 講演の感想

表 1-1、1-2、表 2-1、2-2、2-3 に、講義支援の感想について、質的にカテゴリ化したものを示す。

経済学の記述率は 82.3% (65/79)、コードは「114」、サブカテゴリは《91》カテゴリは<52>、コアカテゴリは【11】抽出した。主なコアカテゴリは【道や各市（高校の取り組み含む）の現状と問題（少子高齢化）から対策の必要性がわかり、地元のことを考え、事の深刻さを感じる（44）】【広報、予算、施設支援の不足があり、きめ細やかな制度、改善策が必要である（17）】【わかりやすく、ためになる、興味関心を引き出す講義である（14）】であった。

概論の記述率は 95.7% (45/47)、コードは「84」、サブカテゴリは《84》、カテゴリは<23>、コアカテゴリ【8】を抽出した。主なコアカテゴリは【児童相談所の虐待事例に対する対応と支援など興味深く、学ぶ機会となり、イメージしやすく、身近に感じた（34）】【国や北海道の少子化・晩婚化の現状と子育ての制度と対策を学ぶ（19）】【学ぶ意欲に繋がり、将来(就職にも)に活かす（16）】であった。

表 1-1 経済学の感想カテゴリ

サブカテゴリ【91】	カテゴリ<52>	コアカテゴリ【11】
道の魅力度ランキングで1位なのに、合計特殊出生率はワースト2位と知り、驚く（3）	道の人口減少、少子化、年金の現状を知り、身近に感じ、驚く（14）	道や各市（高校の取り組み含む）の現状と問題（少子高齢化）から対策の必要性がわかり、地元のことを考え、事の深刻さを感じる（44）
少子化問題を身近に感じた（3）		
北海道（名寄含む）の少子化の実態を知り、驚く（2）		
将来の人口をきき、少子化は深刻（2）		
少子化問題も他人事ではない		
道の少子化の現状を知り、良かった		
年金が減り、十分な生活が送れないことは問題		
札幌は独身女性が多いと聞き、安心した		
若者が高齢者を支えることが大変になると知り、恐ろしい		
道の取り組みを知ることができて良かった（4）		
道の少子化対策、子育て支援推進施策(制度)を知り、驚く（4）	道・市町村の少子化対策、子育て支援推進施策(制度)を知り、子どもを大切に思う気持ちを知る（11）	
市町村ごとの少子高齢化の具体的な対策を知り、良かった		
子どもを預けるマッチングサービスを知る		
施策から子どもを大切に思う気持ちを知る		
少子化について考える機会（2）	少子高齢化について考える機会（4）	
少子化問題を考えていく		
少子高齢化について考えた		
東川町は何度かいったが、とてもいい町	市町村の対策と評価（3）	
市町村として住民に何かできたら、人口は増える		
外にコミュニティをつくる取り組みは子育て家庭にとって望ましい		
自分の地元について考えることができた	地元について考える（2）	
広大な土地と豊かな資源がたくさんあるので、地元について考える		
少子化問題と対策は大変であり、大切（3）	少子化問題と対策は大変であり、大切とわかる（3）	
少子化の原因は女性が働くこと	少子化の原因、要因を理解（2）	
少子化の原因や要因を理解した		
地域で子育ての体制が必要	対策の必要性がわかる	
移住に理解がある地域に住んでいたのが新鮮	情報が新鮮	
子どもとのふれあい不足や苦手感があり、○高校の取り組みが良い	子どもとのふれあい体験、高校の取り組みの良さ	
婚活プロジェクトを聞き、事の深刻さを知る	婚活対策を知り、深刻さを知る	
周知不足がある	少子化対策、子育て支援の広報不足、情報を伝えてほしい（4）	広報、予算、施設支援の不足があり、きめ細やかな制度、改善策が必要である（17）
子育て支援を頑張っている事を知ることのできる機会がほしい		
名寄で子育て推進の広報活動を見たことがない		
少子化問題の対策をしているのかわからなかった		
家庭1つ1つに目を向け、対応する制度がほしい	国や行政は制度やサービス、改善策をきめ細やかにもっとしてほしい（4）	
子育て支援の制度やサービスがもっと増えると良い		
子どもができたら、支援制度のある地域に住みたいので、口だけでなく、制度化して		
国はもっと少子化に対する改善策を考えて		
名寄は住みやすい	名寄は住みにくく、このままなら学生も残らず子の出産もない（2）	
名寄がこのままなら、名寄に残る学生は少なく、子も生まれない		
安い受講料で勉強や、スポーツを教える場が増えると良い		
大学生への援助金が欲しい		
国の少子化問題が話題になるが、待機児童など保育所や幼稚園への支援が少ない	保育所、幼稚園の支援不足（少子化問題・待機児童対策）	
国からの予算が足りず、子育て支援事業が充実しないから、もっと重要視すべきである	予算不足（子育て支援事業対策）もっと重要視すべき	
子どもが欲しくて、できない人の支援も大切	不妊症の支援が必要	
安心して子どもを産む育てられる環境づくりが大切	安心して子育てできる環境づくりが必要	
定住してもらう対策も必要	定住対策が必要	

表 1-2 経済学の感想カテゴリ

サブカテゴリ 《91》	カテゴリ<52>	コアカテゴリ 【11】
感謝（7）	感謝（7）	わかりやすく、ためになる、興味関心を引き出す講義である（14）
ためになる講義で受けて良かった（2）	ためになり、子育てイメージが良くなる	
子育てのイメージが悪くならず、良くなるよう、講演をもっと行うべきだ	講義を行うべきで、受けて良かった（3）	
地元の話があり、興味を持ち聞けた	興味を持つ	
良い講義	良い講義	
資料を使い、わかりやすく説明があり、楽しかった	分かりやすく、楽しい	
社会増加率の話が面白い	面白い	
将来（未来）などを考える機会（3）	未来（結婚や子育て）をイメージした（6）	自分の将来の結婚、出産、経済的側面をイメージした（9）
将来に向け色々考えた		
将来の結婚や子育てについて考えた		
子どもが誕生した時のことをイメージできた		
今、結婚し子どもを産むことは考えられない	自分の結婚、出産、経済面の現状を考える（2）	自らの行動を振り返り、気づく（8）
経済的に安定するまで、就職後時間がかかる	自分の能力不足(自虐)で子が不幸になる	
自分は何も教えられず、子が不幸になる	自らできる活動を行い、地元に還元する（就職、社会活動や選挙に行くなど）（4）	
道の人口減を考え、自分の就職は地元に戻るのも良い		
地元に還元したい		
自らが少子化対策の社会活動をするのが大事		
できること（選挙に行く）から行う	知ろうとする姿勢が大事と気づく	
知ろうするとわかると気づく	知ること改善される	
知ること改善される	少子化問題を自ら知ろうとしていない自分に気づく	
少子化問題（社会の動き）を自ら知ろうとしていなかった	力になれることは、積極的に活動したい	地域格差、貧困格差を知り、改善を考える（7）
少子高齢化とともに進んでいるので、力になれることは、積極的に活動したい	社会減は制度で改善；下層の持ち上げ（2）	
下層を持ち上げることが必要		
社会減は制度によって改善できる		
道の都会と田舎で格差がある		
都市部と田舎の差に相関して、次世代の差が広がる	道の都会と田舎の格差、次世代の差を知る（2）	
地域で出生率や収入が違う	地域で差（出生率・収入）がある	
札幌に人口が集中すると子育ての行政支援が追いつかず、地方も過疎が進み、合計特殊出生率は下がる	都市集中で施策が追いつかず、地方は過疎で出生率が下がる	
1都市に固まっているので分散させる	都市、分散の必要性	
北海道の対策は良い	道の対策支援はよく、安心する（2）	道の対策、制度への好評化（4）
北海道の対策、支援を知り、安心した		
今生きている子ども達のために色々制度があり、良い		
子育てする人が暮らしやすい社会が少子化の改善に繋がると納得	解決策に納得	前向きな結婚イメージと出生率、人口の増加、住みやすさ、苦しくない社会を期待する（4）
北海道は1次産業、観光が盛んなので、合計特殊出生率の上昇が望める	道の産業の特徴から、出生率増加を期待	
北海道は住みやすい環境で支援の充実があれば他都府県からの流入も期待できる	道の住みやすさから流入人口を期待	
子どもや親になる人が苦しくならない社会になればいい	子や親が苦しくない社会を希望	
結婚について前向きなイメージが増え、少子化がなくなればいい	前向きな結婚のイメージ強化と少子化の改善を希望	今後、子育てや生活に役立てる（3）
今後、役立てたい	子育て支援など知った事を今後の子育てなどに役立てたい（2）	
子育て支援の制度を知り、自身の子育てに役立てたい		
問題を認識し、自分の意思確認をして、今後の生活をする	問題認識と自分の意思確認をし、今後の生活をする	出生率が低い現実と感覚の違い（2）
環境は素晴らしいのに子どもの出生率が低いのか不思議	環境が良いのに出生率が低く不思議	
もっと生まれていると感じていた	出生率がもっとあると実感	
結婚し子どもが欲しいと思うと同時に、子育てと仕事の両立に不安を持つ	育児希望と仕事との両立を考え、不安を持つ	
支援策を知り、結婚したい、子どもが欲しい思いが強くなった	支援策を知り、育児希望が強化された	育児希望の気持ちの強化と仕事との両立の不安（2）



表 2-1 概論の感想カテゴリ

サブカテゴリ 《84》	カテゴリ<23>	コアカテゴリ 【8】		
事例を実際に聞き、考えることで虐待の現状などを知る	虐待事例から、想像を絶するものがあるを知る（11）			
事例から虐待の理解を深めた				
想像もつかないことが子どもに起こっており、かわいそうだった				
事例を聞き、想像を絶するものがあることを知った				
虐待の事例から、家庭内で様々なことが起こると知った				
事例を通して家族間でもそのようなことがあるのかと知った				
性的虐待が本当にあるんだ				
事例を通して考え、話を聞き、そのような事も世の中にはあるということを知った				
事例が衝撃的だ				
虐待の事例を聞き驚く				
身近なところで衝撃を受けるような虐待がおきており、恐怖を感じた			虐待事例から児童相談所の対応と支援の難しさを学ぶ（11）	児童相談所の虐待事例に対する対応と支援など興味深く、学ぶ機会となり、イメージしやすく、身近に感じた（34）
虐待事例の少ない情報から面談で何を聞くか、疑問に思えることは何か考えるのは難しい				
児童相談所は様々な支援をしていることを知ることができた				
事例から児童相談所が具体的にどのように対応し、何を目指し支援を行っているのかを学ぶ				
事例の説明から、児童相談所にどんな内容で通う子・親がいるということを知る				
虐待は見つけなければ悲しい結果となるし、世間から非難されるが、安易に判断もできない				
様々な形の家庭+問題があるので理解していくことが大切で難しい				
事例から児童を保護し、話を聞く時は言葉を選び、更に傷つけないよう、気をつけていることが大切である				
児童相談所では私が思っていたより幅広いことを取り扱っている				
対象は子どもやその周りの人で、様々な情報を得てアプローチしなければならない				
家庭内の問題は介入がとても難しいデリケートなものとなる	貴重で、興味深い話を聞けて事前に知る機会となり、良かった（6）			
助ける場があることがわかった				
こういう機会がないと事前に知ることがないと思うので授業があって良かった				
興味深い話				
児相の方のお話を聞く機会がなかったので貴重であった				
聞けて良かった				
児童相談所や子育て支援について詳しく知らなかったので興味深かった				
事例から考える機会がありとても良かった				
事例から児相の実際の対応がわかり、考えさせられ、わかりやすかった				
事例の話は印象に残り、イメージしやすかった				
様々な事例があり、イメージがしやすかった			事例の話は印象に残り、イメージしやすくわかりやすい（4）	
事例がありわかりやすかった				
事例を聞くと他人事とは思えない	身近に虐待事例を感じ、他人事ではない（2）			
身近にそのような子がいるということを実感した				

表 2-2 概論の感想カテゴリ

サブカテゴリ 《84》	カテゴリ <23>	コアカテゴリ 【8】
少子化が進行している現状に対し、行っている対策がこんなにあるのかと興味深かった 少子化対策で子どもを増やそうと国として行っていた 北海道の少子化の現状や対策を学ぶ 北海道の少子化の現状を知ることができ良かった 少子化は思っていたより進んでいた 合計特殊出生率が北海道は2番目に低いのに、沖縄県は最も高く驚く 少子化の現状は厳しい サツドラなどでも子育てを応援していることがわかった 北海道が結婚、妊娠、出産に関して幅広く、そして、心強く動いていることを知れて良かった 子育ての政策が進み、少しずつ子育てしやすい環境が整えられていることがわかる 子育てについての制度がたくさんある 子育てについて思っていたよりも対策がとられていた 少子化や晩婚化などについてわかりやすく学ぶ 子育ての支援は様々なものがある 子どもが減り、社会を支える人がいなくなることにに対し、たくさんの制度や対策が取られている 子育てをしやすい環境をつくるため、さまざまな制度や体制がつけられているとわかる 少子化対策や子育て支援を知ることができて良かった 北海道での支援が色んな面でたくさんあることがわかった たくさんの原因や要因で少子化になっており、今後への不安が大きいことを改めて理解した	国や北海道の少子化の現状と対策を知る (18)	国や北海道の少子化・晩婚化の現状と子育ての制度と対策を学ぶ (19)
児童虐待に興味があり、保健師になり、そのような子ども達を助けたい思いがある 事例の話を聞き、子ども達を助けたい思いが強まった 将来医療職についたら、子ども達を守る存在になりたい 児童虐待防止は医療職も協力することが重要だ 子どもや家庭の支援は難しい問題でもあるが、しっかり理解し、考え、将来自分が支援できる立場として生かしたい	少子化の原因と要因を理解	
現状や問題点を知り、制度、支援について知りたい 子どもと親、家庭での過ごしやすい生活環境のためにもっと学びたい ライフデザインBookをよく読んで理解を深めたい 少子化を知り、自分たちの若い世代が「何かしら頑張らないと」と思った 虐待の早期発見、防止のために子どもの小さな変化に気づくことを心がける 病院で働いた時、「あれ？」と思った時の通告義務をしっかり果たす 子どもの様子がおかしいと感じたら身近な関係者に相談する 自分が子育て支援を受ける立場になった時のため、知識や情報を集めておく 看護職として働くにあたり、子育て支援や児童虐待に関する知識は大切だ 児相で保健師として働きたいが、まだ、国で常設と決まっていないことは知らなかった 早く常設にしてほしい	将来医療職についたら、支援できる立場として、子ども達を守る、助ける存在になり、活かす (5)  理解したい、知りたい、学びたい、頑張りたい (4)  子どもの様子の変化に気づき、変だと感じたときは通告したり、関係所管に相談する  知識や情報を集めたい (2)  児相で保健師の常設を希望 (2)	学ぶ意欲に繋がりと、将来(就職にも)に活かす (16)
子どもを持つ時、近隣との関係づくりが大切だ 支え合うこと、協力する事の必要性を理解できた 子どもができたなら愛情たっぷり育て、守ってあげたい 子どもを持つ際に責任をもつことを忘れないようにしようと感じた	子どもを持つ時、支え合い、協力する関係づくりが必要と理解した (2)  子どもには、愛情を持ち育て、守る責任を忘れない	子どもに愛情と責任を持ち、子育ては、協力し合う関係づくりが大切 (4)

表 2-3 概論の感想カテゴリ

サブカテゴリ 《84》	カテゴリ<23>	コアカテゴリ 【8】
子育てを考える機会になった	少子化、子育てについて、今を生きる人として <b>考える機会</b> になった (3)	少子化、子育てを考え、イメージした (4)
自分も今を生きる人として考えなければならない		
少子化問題も改めて考える機会になった		
以前より子育てについて具体的なイメージが湧いた	子育てについて具体的な <b>イメージ</b> が湧いた	
少子化が進んでいるため、もっと子育てを支援する策が必要である	もっと子育てを支援する策が必要	時代や各家庭に合わせ、子育て支援策が必要で働き方の変化やもっと支援策が必要 (3)
時代に合わせ、働き方や子育ての仕方が良い意味で変わっていくべきだ	時代に合わせ、働き方や子育ての仕方も変化するべき	
家庭も様々な形態や事情があり、それを理解し、子育て支援をする取り組みが重要である	家庭も様々な形態や事情があり、それを理解し、子育て支援をする取り組みが重要	
時間をかけて少子化になったからそれを戻すにも時間がかかってもしようがない	少子化を戻すにも時間がかかる	少子化の改善には安全な場所と時間が必要 (2)
子どもが安全に暮らせる場所が増えれば少子化の改善につながる	子どもが <b>安全</b> に暮らせる場所が増えれば少子化の改善につながる	
子どもを増やすことは（量）重要だが、どのような子どもを育てていくか（質）も問われる	どのような子どもを育てていくかが問われる	子育ては難しく、どのような子を育てていくのが問われる (2)
子育ては難しい	子育ては難しい	

### 3. 考察

#### 1) 少子化対策としてのライフデザイン教育

核家族化が進み、共働きが増え、国も女性の雇用を増やし、労働力を確保するための策を講じている。

本調査において、7-8 割の大学生が少子化を問題と感じており、自分たちの世代が高齢者を支えていることや都市と将来消滅する過疎化地域との格差と子育て支援を認識し、自らの行動を変化させるターニングポイントの役割を果たすと考え。

今回は、北海道の子育て支援<sup>5)</sup>に関する内容を主に伝えて頂いた。学生は、これらの施策が法律に基づいて行われており、時代の変化に合わせ、対策も柔軟な内容で行われていること、そして、情報発信を十分に言い伝えていくこと、さらに、活用していくことが大切であると認識できたと考え。このような内容を学ぶ機会を継続し、伝える努力をすることが大切である。

#### 2) 大学生のライフデザインイメージ

本調査における大学生は「結婚し、子どもを持ち、親になる」ことを「とても思う」、「思う」を合わせると 7-8 割の者が考えており、その親になる理由として、「自分の家庭を持ち、子どもが欲しい」とした割合が 6 割以上である。今回、1 年生の結果も入った内容で昨年度と同様な結果であり、今までの学生生活や家庭生活を通じて培われてきた価値観は揺らぐ、現代の大学生に共通であることが示唆された。

一方、親にならない理由に、「自由でなくなる」「他人と暮らすのが面倒」があり、人間関係の縛りを嫌う者がいる。結婚に抱く思いの違い（個人差）があると考えられる。

内閣府子ども子育て本部は、「若い世代の結婚の希望が叶うように環境整備が極めて重要であることから、結婚、妊娠、出産、子育ての各段階に応じた支援を切れ目なく行う」<sup>3)</sup>とあり、今回の北海道で行われている婚活、市町村で行われている妊活<sup>4)</sup>や高校での取り組みを具体的に行われている事例を聞くことで、結婚前の取り組みについて実施されていることを認識したと考えられる。

道市町村の子育て支援<sup>5)</sup>から大学生が捉えた現在の育児環境では、育児休業や保育サービスの不足が挙げられており、職場選びでも、「年収、労働時間と休日休暇、仕事と家庭の両立、職場の人間関係」があり、職場での安定や経済的安定の後に、将来役立てることの中に各自治体で行っているサービスの違いなどを十分リサーチする必要がある。

本調査における大学生の育児のイメージは「責任・楽しい・難しい・喜び」というものであり、その基盤には虐待のない育児を行っていくという子への責任と、子どもの発達や成長を伸ばすのも、歪ませるのも親になる自分たちの責任であり、関わりの難しさを感じていることによると考える。楽しい、喜びは、親の子に対する愛情と夫婦の協力、安定した収入が基盤となることが示唆される。

### 3) 経済学と概論の講義内容の違いと学生の学び

対象となる学生の違いとして1.7歳の年齢差がある。これは、講義選択の学年の違いによる影響を受けている。今回注目したいのは、講義支援の内容から培ってきたライフデザインの価値観に対する影響である。

北海道の子育て支援について女性の就業率は年々増加傾向にある中、道民意識調査では、「安心して子どもを生み育てられる環境と感じている」と回答した方の割合が、道内の町村では、平成20年59.0%から平成30年65.8%と増加している<sup>3)</sup>。経済学受講の方が概論受講者に比べ「安心な場所、自然環境」とした割合が高く、職場選択で「採用形態」とした割合が高かったが、何故、その差が生じたのかは不明である。

質的な感想から考えられることは、経済学受講者での主なカテゴリは【道や各市（高校の取り組み含む）の現状と問題（少子高齢化）から対策の必要性がわかり、地元のことを考え、事の深刻さを感じる（44）】【広報、予算、施設支援の不足があり、きめ細やかな制度、改善策が必要である（17）】【わかりやすく、ためになる、興味関心を引き出す講義である（14）】で、道や各市町村の具体的な取り組みを学び、情報を知らないこと、周知の必要性と自らの姿勢として情報を得るための行動変容について考えられたことである。

概論受講者では、主なコアカテゴリが【児童相談所の虐待事例に対する対応と支援など興味深く、学ぶ機会となり、イメージしやすく、身近に感じた（34）】【国や北海道の少子化・晩婚化の現状と子育ての制度と対策を学ぶ（19）】【学ぶ意欲に繋がり、将来(就職にも)に活かす（16）】で、虐待事例のインパクトが強いということである。ここから、普段、知ることがない児童相談所の方々の具体的対応とアセスメントの視点を学ぶことで、自分たちが将来の職場で遭遇した場合にできる役割について考えており、この2つの講義支援が学生に与えたものは、まず、様々な点で考える機会になったことである。虐待や道や市町村の取り組みを身近に捉え、自分の将来に役立て、自分に置き換え、これからの取り組み姿勢が変化する機会を得たことにある。

今後の方向性として、学生の視野を広げ、道や市町村の取り組みを具体的に知る講義の企画の継続は必要であると考えられる。

## 4. まとめ

- 1) ライフデザインの講義により、虐待や道や市町村の取り組みを身近に捉え、自分の将来に役立て、自分に置き換え、これからの取り組み姿勢が変化する機会を得ることに繋がる。
- 2) 大学生のライフデザインイメージは、「結婚し、子どもを持ち夫婦で協力して子どもを育てる」と考えているものが多く、その育児のイメージは「責任・楽しい・難しい・喜び」などで、子どもの発達や成長を伸ばすのも、歪ませるのも親になる自分たちの責任であり、関わりの難しさを感じ、また、楽しい、喜びは、親の子に対する愛情と夫婦の協力、安定した収入が基盤となることが示唆される。
- 3) 経済学受講者では、主に道や各市町村の具体的な取り組みを学び、情報を知らないこと、周知の必要性と自らの姿勢として情報を得るための行動変容について考え、概論受講者では主に普段、知ることがない児童相談所の方々の具体的対応とアセスメントの視点を学ぶことで、自分たちが将来の職場で遭遇した場

合にできる役割について考える機会になる。

- 4) 今後の方向性として、子育て支援の現状と対策を知り、学生の視野を広げ、道や市町村の取り組みを具体的に知り、広報や子育て支援のあり方を考える機会として講義の企画の継続は必要である。

## おわりに

本学、2教科（経済学と概論）を受講した学生のライフデザインイメージの特徴とライフデザインに関する情報提供の必要性について述べた。今後も道とのライフデザインに関する事業を継続し、情報提供の一機会とできるよう、また、学生のこの活動に関するニーズ調査の結果から、さらに、方法と内容を検討し、より学生のニーズに即した活用のできるものとしていきたい。

このライフデザインゼミの開講にご協力いただきました株式会社インサイト奥田正克様、調査にご協力くださった学生の皆さまに心より御礼を申し上げます。

## 付記

本稿は、名寄市立大学コミュニティケア教育研究センターと道の主催事業である。

## 引用文献

- 1) 内閣府男女共同参画局公益財団法人日本財団学（2015）行政施策トピックス3、共同参画、5、p.10-11
- 2) 的場康子（2016）少子化対策としてのライフデザイン教育を考える、Life design report. p.39-42、第一生命経済研究所ライフデザイン研究本部
- 3) 内閣府資料 第1部 少子化対策の現状と課題、第2章 少子化対策の取組【基本的な考え方】  
[https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2015/27webgaiyoh/html/gb1\\_s2-3.html](https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2015/27webgaiyoh/html/gb1_s2-3.html)  
（2020.3.2 閲覧）
- 4) 北海道妊活特設ステージ <https://medicopt.lnln.jp/localgov/hokkaido>（2020.3.2 閲覧）
- 5) 北海道の子育て支援 [http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kms/hokkaido\\_kosodatesienn.htm](http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kms/hokkaido_kosodatesienn.htm)（2020.3.2 閲覧）

## 参考文献

- 1) 結婚、妊娠・出産、育児に関する情報はこちらのポータルサイト「ハグクム」  
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kms/index.htm>（2020.3.10 閲覧）
- 2) 子育て支援ガイド1 <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kms/st/happi-gaido.pdf>（2020.3.2 閲覧）
- 3) 子育て支援ガイド2 [http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kms/support\\_guide2.jpg](http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kms/support_guide2.jpg)（2020.3.2 閲覧）
- 4) 北村安樹子（2017）未婚者の結婚意思とライフコース、Life design report , p.25-28, 第一生命経済研究所ライフデザイン研究本部
- 5) 江崎正志（2013）高校生・大学生にとってのライフデザイン、Life design report summer , p.1-2, 第一生命経済研究所ライフデザイン研究本部
- 6) 山口公正（2011）ライフデザイン普及・啓発活動はなぜ必要か、Life design report winter , p.1-2, 第一生命経済研究所ライフデザイン研究本部
- 7) ライフデザイン白書 2015、株式会社第一生命経済研究所編、ぎょうせい
- 8) 江崎正志（2016）「ライフデザイン白書」のデータを掘り起こしたレポート、Life design report spring , p.1-2, 第一生命経済研究所ライフデザイン研究本部